

3) 自転車利用：自転車利用者数と駅周辺の駐輪台数

平成 7 年大都市交通センサスによれば、国立駅へ至る交通手段の 25.0%が自転車利用であり、その数は 6,567 台に及ぶ。これに対し、駅周辺の自転車駐輪場は、5 箇所あり、収容台数合計は 6,275 台である。この台数は、国立駅利用者が全て駅周辺の駐輪場を使用した場合、数百台の不足となる。

実際には、大学通り駐輪場や富士見通り駐輪場などの駐輪場は、駅利用者ばかりではなく、国立駅周辺の商店街の利用者も数多く駐輪している。従って、駅周辺の駐輪場は慢性的に不足していると考えられる（平成 15 年に一橋大学学生が国立駅前駐輪場の利用実態を調査し、共用自転車の提案を行った自主研究「Re:Cycling」では、大学通り駐輪場が、通勤通学時間帯以降も買い物客等が駐輪を続け、ここが満杯になった時間帯以降に駅前に放置自転車が発生するメカニズムを解明している）。こうした理由から、国立駅周辺では日に 500 台程度の放置自転車が発生し、歩行上の障害や良好な景観形成の阻害要因になっている。国立駅周辺まちづくりの検討にあたっては、駅利用者の駐輪空間の確保が大きな課題としてあげられる。

■国立駅周辺の自転車駐輪場

1. 有料駐輪場

国立駅南第 1 自転車駐輪場（一般登録 1,570、一時利用 193、合計 1,763）

国立駅南第 2 自転車駐輪場（一般登録 2,050、一時利用 200、バイク 60、合計 2,310）

2. 無料駐輪場

大学通り自転車駐輪場（1,900）

富士見通り自転車駐輪場（400）

国立北一丁目自転車駐輪場（355）

4) 駐車場利用

国立駅周辺の時間貸し駐車場としては、国立駅南口駐車場（230 台）、くたち駐車場（80 台）の他、近年、駅周辺の十数カ所にコイン式駐車場（約 170 台）が設置されている。

(4) 道路の状況

1) 国立市内の道路

国立市内の道路は JR 国立駅を中心とした道路ネットワークが形成されており、市の南部には、東京都市圏の広域的幹線道路である国道 20 号線が走っているが、市の南北が JR 中央線により分断され、南北方向の幹線道路が存在しない現状である。

また、生活道路に関して見ると、幅員が狭い道路が多く、バス路線の設定

が限定され、大学通り、富士見通り、旭通りに集中する傾向があり、これらの通りの交通状況の悪化の遠因にもなっている。

国立駅周辺まちづくりの検討にあたって、南北方向の幹線道路整備が急務であると考えられる。



■国立市内の道路幅員図（秘書広報課「くにたちデータブック」より）



■都市計画道路網図（平成 14 年 3 月「国立駅周辺地区まちづくり計画」国立市商工会より）

2) 都市計画道路の骨格

現在、国立市には、南北方向の通過交通が大量に流入している。本来幹線道路ではない大学通り等が利用されている原因は、国立市を取り巻く都市計画道路の骨格が未整備だからであると考えられる。幹線道路の骨格として想定される都市計画道路は、南部が国道 20 号線、東側が府中所沢線（府中・国分寺 3・3・8 号線）、西側が立川東大和線（立川 3・3・30 号線）、北側が国分寺 3・4・7 号線である。

北多摩北部建設事務所（北多摩北西部 10 市：立川、昭島、小平、東村山、国分寺、国立、東大和、清瀬、東久留米、武蔵村山が所管区域）によれば、府中所沢線は、北多摩地域の中央部を縦断し、現府中街道を抜本的に改善する重要路線である。府中・国分寺 3・3・8 号線は、通称東八道路との交差点から南側はすでに供用開始になっている（東八道路はさくら通りの延長である東西道路《府中 3・4・5 号線》と交差する予定だが、この東西道路はまだ事業化されていない）。この東八道路から北に行き、国分寺 3・4・3 号線、通称多喜窪通りまでは、平成 17 年度から供用開始になる予定である。更にその



北側の国分寺市区間については、東京都環境影響評価条例に基づく環境現況調査が進められている。

立川東大和線は、立川市区間が立川 3・3・30 号線、国立市区間が国立 3・3・15 号線である。この道路は、中央自動車道の南側までほぼ出来上がっている。中央自動車道から北へ、国道 20 号線までが平成 16 年度中に完成する予定である。国道 20 号線より北は、中央線連続立体交差事業に整合させながら事業化を目指している。